

平成24年度
高等教育機関コンソーシアム和歌山
「わかやま学講座」事業実施報告書

平成25年3月

高等教育機関コンソーシアム和歌山公開講座WG

平成24年度 採択事業一覧

<フォーラム>

コーディネーターから発信 ～つながりの向こうには…～
(和歌山コーディネーターズ)

園芸福祉や農を通して若者が地域活性化に参加 君が主役だ
(わたぼうしくらぶ)

<講座>

南方熊楠を知る講座 ～熊楠ワールド～
(南方熊楠ワールド研究会)

地球温暖化・再生可能エネルギーの現状と将来
(きのくにサイエンス・ラボ)

ちょっと気になるこころの風景をみんなで考えてみませんか
(橋本みんなでつながり隊)

(様式3)

平成24年度 高等機関コンソーシアム和歌山
「わかやま学講座」事業実施報告書

平成24年12月17日

企画団体名 和歌山コーディネーターズ

事業名	コーディネーターから発信！ ～つながりの向こうには……～		
企画の趣旨 及び理由	コーディネーターの立場から、「きのくに共有コミュニティ」の取組の意義を発信したいと考えています。「つながり」の中から生まれる「感動」や「喜び」を共有し、また、さまざまな立場の参加者とともに「つながり」を紡ぎ出すコツやポイントについて考えたいと思います。自分たちにとっては初めて経験することばかりですが、大学の先生方とのつながりを生かし、自分たちの自己研鑽の機会とも位置づけたいと思います。		
実施会場	【名称】和歌山大学松下会館		【電話】 073-427-4623
	【所在地】和歌山市西高松1-7-20		
企画内容	回	実施日・時間	テーマ・内容
		10月14日(日) 13時30分～ 16時30分	講座概要のとおり
			堀内 秀雄 (和歌山大学理事／ 副学長)
主催者及び参加者にどのような成果をもたらしたか	・20歳代から70歳代までの幅広い分野の方に参加して頂けたので、新たなネットワークも出来た。ラウンドテーブルでは、これからのコーディネーター像について前向きなグループ討議が出来た。その中で参加者が自分の役割を見つめ直したり、ヒントを見つけたり、一歩前に進むきっかけになったりなど、これからの視野が広がった意見もあり、新たなつながりの中から生まれる確かなものを感じとってもらえた。また、フォーラムをきっかけに各地でコーディネーター同士の情報交換がさらに広がりを見せはじめている。		
講座名 (タイトル)	コーディネーターから発信！ ～つながりの向こうには……～		
実施会場	(名称) 和歌山大学地域連携・生涯学習センター		
	(所在地) 和歌山市西高松1-7-20		
実施日・時間	平成24年10月14日 (日) 13:30～16:30		参加人数 52 名
【講座概要】 ◆心温まる「つながりエピソード」大発表(5名の発表者) 講評・堀内秀雄 和歌山大学理事・副学長 ◆気付きの時間「～ある学校の こんな風景～」 (参加者による寸劇) ◆ラウンドテーブル「今、こんな“こーでいねーたー”が必要だ」 各グループからの発表 講評・山口裕市 前和歌山県教育長 ◆メッセージDVDの上映			

平成24年度 高等機関コンソーシアム和歌山

「わかやま学講座」事業実施報告書

平成25年 1月31日

企画団体名 わたぼうしくらぶ

事業名	園芸福祉や農を通して若者が地域活性化に参加 君が主役だ		
企画の趣旨 及び理由	少子高齢化が進む中で、地域では若者の社会参加が求められている。園芸や農業に関心を持ち地域と交流しながら活動を展開している高校生、大学生等の若者の取り組みを、紹介し、園芸、農業を地域交流のひとつの分野として認知度を高める。潜在力の眠る和歌山のチカラを再発見したり、身近な取り組みに一步踏み出す契機にすることを目的とする。		
実施会場	【名称】ビッグ愛		【電話】073-435-5245
	【所在地】和歌山市手平2丁目1-2		
企画内容	回	実施日・時間	テーマ・内容 講師
		平成24年12月16日 13:30～16:30	園芸福祉や農を通して若者が地域活性化に参加 君が主役だ 基調講演 鈴木裕範和歌山大学 経済学部教授
主催者及び参加者にどのような成果をもたらしたか	高校生、大学生さんのそれぞれ特色ある発表で、お互いに刺激になったり、参考となったところが多かった。校外に出て地域との交流を通して、目標に一步一步着実に前進していることが分かり、地域を高校の応援団として巻き込んでいく努力の重要性を学んだ。また地域も高校とのつながりを得て、地域の活性化のひとつとして高校生の活力を求めていることも再認識できた。 今回のシンポジウムを単発に終わらせるのではなくて、継続的な開催の依頼もあり、交流会など若者と地域をより深耕できる機会を作ることも今回のシンポジウムで得た大きな課題である。		
講座名 (タイトル)	園芸福祉や農を通して若者が地域活性化に参加 君が主役だ		
実施会場	(名 称) ビッグ愛		
	(所在地) 和歌山市手平2丁目1-2		
実施日・時間	平成24年12月16日 (日) 13:30～16:30		参加人数 75名
【講座概要】 前半は、農業・園芸活動に取り組んでいる高校生、大学生、農園経営者に今までの活動と今後の活動予定を発表。 13時30分～13時45分 和歌山工業高校生徒さん発表 園芸部部長の殿垣内さん発表 「学校発 花つながりのひろがり ～フラワーネットワーク～」 園芸部は現在1人だけの活動。今までの先輩たちの取り組みを中心に発表。 今後は生徒会の応援を得たり、近畿大学生物理工学部IPEGや校外の園芸活動団体との連携、グリーンボランティアへの参加も行っていく。 13時45分～14時00分 有田中央高校生徒さん発表 総合学科農業系列の生徒さん発表 「私たちは地域の期待の星になる ～七味から広げよう笑顔の輪～」 地元の素材を活かしての七味の6次産業化への取組みを発表。 地元の農家、社会福祉法人、漁業組合、保健所、商工会などと連携を深め、七味とうがらしの商品化を目指し、今年販売予定である。高校生が主となった6次産業化の注目すべき事案である。 (次のページに続く)			

14時00分～14時20分 京都府立桂高校生徒さん発表（友情出演）

エコで笑顔研究班が発表

「環境と共生するまちづくり、グリーンカーテンで地域活性化 ～伝統野菜と新しい野菜～」

全国大会にも参加し、受賞されている京都府立桂高校の発表は、洗練されていて、見る者を引き付ける内容であった。

小学校と地元自治会との連携による京野菜栽培などの体験活動重視の環境教育の実施

グリーンカーテンの候補を伝統野菜と新しい野菜に絞り、研究。

行政との連携も進み、京都市のグリーンカーテンプロジェクトの注目株となっている。

14時20分～14時35分 近畿大学生物理工学部 IPEGさん

Investigate（調査）Plant（植物）Enjoy（楽しむ）Gardening（庭）から IPEG

4つの分野で活動 大学生の発表らしく、理論と実践を整然と行い、英語によるスピーチも披露

環境分野：学外での里山祭、ジャム作り、キノコ狩りに参加

バイオ分野：フラスコプラントの実験と実用化へ

ガーデニング分野：和歌山県植物公園緑花センターでの活動

外部コミュニケーション分野：グリーンボランティアに参加

14時35分～14時50分 矢田農園代表 矢田亘識氏

矢田農園を自ら立ち上げた経緯の中での苦労話や事業を開始する時の資金面の厳しさを語る。農業関係の起業の現実の厳しさを若者に伝え、参加者も矢田氏の話に関心を強く抱き、勉強、参考になったという意見が多かった。

15時00分～15時30分 鈴木裕範和歌山大学経済学部教授による

基調講演 「若者の参画が勇気を与える ～地域と学生の連携による 地域づくり～」

鈴木教授とゼミ生が取り組んできた那智勝浦町での協同を講演

行政主導の地域づくりから官民協同の地域づくりへ

限界集落の危機 若者が地域に入ることによる変化 閉鎖性から脱閉鎖性へ

若者への地域の期待：若者のチャレンジ精神 地域の雰囲気明るくなる 将来地域のリーダー、農業の担い手になる

学生と地域が価値を共有し合うことが重要 自主と自律、互惠の精神を大切に、地域に学び、地域とともに地域再生」への道を開く可能性が若者にあると強調された。

15時35分～16時30分 発表された生徒さんを交えてのディスカッション コーディネーター：鈴木教授

今までの発表で話が出来なかったこと、これからの抱負などを発表された団体のパネリストが語り合った。

(様式3)

平成24年度 高等機関コンソーシアム和歌山

「わかやま学講座」事業実施報告書

平成24年12月28日

企画団体名

南方熊楠ワールド研究会

事業名	南方熊楠を知る講座			
企画の趣旨 及び理由	熊楠の魅力を地元から発信するため、地元や教育関係者、熊楠に関心を持つ方々などにも気軽に参加して、熊楠の魅力を発信していただく。自らが発信者になっていただくため講座を企画した。			
実施会場	【名称】	南方熊楠記念食室		【電話】 0739 72-2872
	【所在地】	西牟婁郡白浜町3601-1		
企画内容	回	実施日・時間	テーマ・内容	講師
	1	9/2 13:30~15:00	南方熊楠の4教	高知大学教授 黒山直司
	2	10/7 13:30~15:00	熊野における南方熊楠	和歌山工業高等 専門学校校長教授 吉川寿洋
	3	11/4 13:30~15:00	南方熊楠と粘菌	和歌山大学短期 大学講師 山東英幸
主催者及び参 加者にどのよ うな成果をも たらしたか	様々な分野の方士方に来て頂き、主催者側も大変刺激を受け、又、来訪者の繋がりも出た。 又、地元のみならず、方々も多数参加してくれ、どの講座にも関心を示していただいた。 又、主催者側から参加者に熊楠の発信者になっていただくよう強く要望した。			

講座名 (タイトル)	南方熊楠を知る講座		
実施会場	(名称)	南方熊楠記念会館	
	(所在地)	西牟婁郡白土町3601-1	
実施日・時間	平成24年9月2日(日) 13:30~15:00	参加人数	37 36 35 名
【講座概要】			
第一回講座 24.9.2.(日) 13:30~15:00 テーマは南方熊楠と仏教、講師は、南方熊楠と仏教(南方異果屋)についてを研究されている高野山大学の奥山直司先生にお話し頂いた。アチカ時代の珍事評論、土宜河龍の由係、粘菌、南方ミダラ等について詳しく説明して頂いた。参加者も多く、充実した講座となった。			
第二回講座、 13:30~15:00 24.10.7(日) テーマは熊野における南方熊楠、講師は、和歌山大学教授の吉川寿洋先生にお話し頂いた。南方熊楠について長年研究されている吉川先生から、熊楠の全体像、よく熊野における、熊楠の生き様についてお話し頂いた。参加者からの質問も多く出て、盛り上がった講座となった。			
第三回講座、 13:30~15:00 24.11.4(日) テーマは南方熊楠と粘菌、信愛短期大学の山東英幸先生にお話し頂いた。先生は粘菌の平行的に研究されている和歌山県唯一の人であり、多くの粘菌塗料を提示しながら詳しく説明して頂いた。参加者も興味津々の様子であった。			
全体を通して、学識の広い熊楠にあわせて、色々な角度からの講座となった方に思う。			

平成24年度 高等機関コンソーシアム和歌山

「わかやま学講座」事業実施報告書

平成24年12月28日

企画団体名 きのくにサイエンスラボ

事業名	地球温暖化・再生可能エネルギーの現状と将来			
企画の趣旨 及び理由	東日本大地震に伴って原発事故が発生し、地球温暖化問題への対応も含めて今後の日本のエネルギー政策のあり方が問われている。市民が地球温暖化と気候変動、再生可能エネルギー資源等について科学的に正しい知識を持つことにより、特に、和歌山の自然条件に適した再生可能エネルギーの形態が何なのかを模索するヒントを提供するものになることを期待して講座を企画した。			
実施会場	【名称】和歌山市男女共生推進センター（第1回・3回）		073-432-4704	
	和歌山市東部コミュニティーセンター（第2回）		073-475-0020	
	【所在地】和歌山市男女共生推進センター		和歌山市小人町29番地	
	和歌山市東部コミュニティーセンター		和歌山市寺内665番地	
企画内容	回	実施日・時間	テーマ・内容	講 師
	1	10月28日（日） 14時00分～ 16時30分	地球温暖化の原因に関する科学的研究の諸説、温暖化の現状、気候変動の現状と諸課題について講演する。	此松昌彦（和歌山大学教授）
	2	11月17日（土） 10時00分～ 12時00分	再生可能エネルギー（太陽光・熱、風力、水力、地熱、海洋エネルギー、バイオマスなど）の研究や実用化の現状と将来について対談を行う。	重 栖 隆（わかやま環境ネットワーク代表） 宮永健史（和歌山大学名誉教授）
	3	11月24日（土） 14時00分～ 16時30分	再生可能エネルギーについて和歌山では何が可能かについて講演する。	中村大和（元和歌山大学経済学部教授）
主催者及び参加者にどのような成果をもたらしたか	実施した3つの講演会は大変好評で、参加者は大変熱心に聞いておられました。アンケートにも「地球温暖化が二酸化炭素だけでなく様々な要因がある事がわかり非常に勉強になった」、「再生可能エネルギーについてよく分かり勉強になりました」、「ライフスポットの興味ある話を聞いてよかったです。」「偏らない説明、科学の正確性、適確性の様々なところも含めて勉強させていただきました。」「今後も講座を続けていただきたい。」とあるように、参加者が多くの新しい知識を得られたと思いました。 きのくにサイエンスラボのメンバーは皆、科学の研究・教育に携わっている（または、携わっていた）者であり、これらのテーマについてはある程度知っていたが、今回の講演を聴いて、新たに大変多くの事を知りました。また、高度な科学技術社会において、市民の皆さんに科学、技術を知ってもらう活動は大変重要であるとの認識を新たにしました。			

講座名 (タイトル)	地球温暖化と気候変動を考える		
実施会場	(名称) 和歌山市男女共生推進センター		
	(所在地) 和歌山市小人町29番地		
実施日・時間	平成24年10月28日(日) 14:00~16:30	参加人数	12名

【講座概要】

最初に地球温暖化の現状について、気象庁HPなどを資料に北半球で平均して最近100年で0.68度の気温上昇しているなどの状況が紹介され、気温上昇により大気中の水蒸気量が増え降水量の増加を引き起こし、洪水などの異常気象をもたらしているなどのフランス・ピアーズの見解が紹介されました。

一方、各種の観測結果により大気中の二酸化炭素濃度が増加しており、ピアーズ氏は温室効果ガスの増加と深刻な水害の増加との間に相関性があるとの見解を示していること、1888年にアメリカで二酸化炭素の増加が地球温暖化の原因になっており、それが環境破壊につながっているとのハンセン博士の証言が話題になり、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)も化石燃料による二酸化炭素の増加を指摘していることが説明されました。

つづいて講師は地球温暖化は二酸化炭素だけが原因だろうかとの問いかけ、46億年の地球の歴史の中での寒冷化や温暖化の気候変動の様子が紹介され、気候変動が火山活動、大陸移動、2万年周期の地軸の回転、4万年周期の地軸の傾き変動、10万年周期の公転周期の変動、地球磁場の変動、太陽活動の変動など様々な要因の影響を受けることが解説され、気温を決めるのは二酸化炭素だけでないことが強調されました。

講演終了後アンケートを書いていただき6名の方から回答を得ました。その概要を以下にまとめます。

★性別 男性 6 女性 0

★住所 和歌山市 5 岩出市 1

★年齢 40代 1 50代 3 60代 0 70代 2

★この講座を知ったきっかけ チラシ3 ホームページ0 新聞記事 1 知人の紹介1 その他1

★チラシの入手先 主催団体 1 県庁・市町村役場 1 その他 1(松下会館)

★関心のあること 歴史・文化0 自然・環境 3 防災 1 産業・環境 2
健康・福祉 0 子育て・教育 0

感想・意見

- ・地球温暖化が二酸化炭素だけでなく様々な要因があることがわかり非常に勉強になった。流されることなく何が正しいか冷静に見ていくことが大切と感じた。
- ・せっかくの講座であるので広く広報し、受講者が多く集まるようになればと感じた。
- ・地球温暖化について二酸化炭素増加説が疑問視されているという見解が紹介され面白かったです。
- ・偏らない説明、科学の正確性、適確性の様々なところも含めて勉強させてもらいました。
- ・自分には少しむづかしいと思いました。地球温暖化は色々な要素が重なり合っているということだけわかりました。
- ・わかりやすくよかったです。勉強になりました。ただもう少し多くの方々にも本講座を紹介していただける方法を工夫されれば、さらに聴講者も増えると思います。
- ・今回の講座を拝聴して地球温暖化にもっと関心を持ち学習したいと思います。

講座名 (タイトル)	再生可能エネルギーの現状と将来		
実施会場	(名称) 和歌山市東部コミュニティーセンター		
	(所在地) 和歌山市寺内665番地		
実施日・時間	平成24年11月17日(土) 10:00~12:00	参加人数	17名

【講座概要】

重柘隆氏と宮永健史氏の対談形式で開始され、まず重柘氏から以下のような説明がなされました。

再生可能エネルギーの定義の説明のあと、再生可能エネルギーの特徴として無尽蔵で半永久的使用可能、二酸化炭素を排出しない、有害物を出さない、地産地消で運用できる、地場産業向きで雇用力大きい、地域分散型のため災害に強いなどの長所とエネルギー密度が低く大量生産できない、自然現象による変動大きい、現時点で発電単価が高いなどの短所の説明がされました。続いて、いまなぜ再生可能エネルギーなのかとして、地球温暖化対策、エネルギー安全保障、低炭素経済革命、原発過酷事故後の脱原発について言及されました。

また、日本の再生可能エネルギーの実力として現在の全発電量の約10倍、全原発54基の約40倍の導入ポテンシャルを持っていること(環境省試算)が示されました。

次に、様々な再生可能エネルギーの形態について日本や世界の実例を示しながら説明されました。

太陽光、太陽熱、小規模水力、風力、バイオマス、地熱、波力、潮力、海洋温度差発電など長所、短所、日本の自然条件での向き、不向きなど詳しく述べられました。

次に宮永氏より太陽光、太陽熱発電の集光のためのフレネルレンズの説明、エネルギーの変換と保存、エネルギー効率、エネルギーの質、コージェネレーション、ヒートポンプなど自然科学の側面から原理的な説明がありました。

最後に重柘氏より日本の現状と課題の説明があり、日本は技術的には再生可能エネルギーの先端を走っているのに、政策として原発に偏り再生可能エネルギーに力を入れてこなかったため、普及において他の国から大きく遅れをとっている現状が示されました。

再生可能エネルギーの日本での普及のためには固定価格買取制度など国民がそれを導入することによって経済的利益を得られやすいようにすること、また発電、送電から需用者までをIT技術でネットワーク化し、安定的な電力供給と効率的な利用を実現するスマートグリッド方式を導入するなど社会システムとして政策化が必要なことを提起されました。

講演終了後アンケートを書きいただき11名(内1名は感想のみ)の方から回答を得ました。その概要を以下にまとめます。

★性別 男性 6 女性 4

★住所 和歌山市 6 岩出市 1 湯浅町 1 有田川町 1 岸和田市 1

★年齢 40代 1 50代 4 60代 3 70代 2

★この講座を知ったきっかけ チラシ 3 新聞記事 2 知人の紹介 5

★チラシの入手先 主催団体 1 その他 2 (松下会館)

★関心のあること 歴史・文化 1 自然・環境 4 防災 2 産業・環境 3

★感想・意見(自由記述)

- ・再生可能エネルギーの話がよくわかり勉強になりました。
- ・風力について低周波公害について初めて知りました。生態系への影響は大丈夫でしょうか。
- ・具体的な資料を示されたおふたりの対談で日本の政策のまずさがわかりました。再生可能エネルギーを使えば危険な原発から脱することができるとはわかっていましたがお話で明るい展望を持たせてもらいました。
- ・12月16日の選挙をひかえ我が国の現在、将来の一次エネルギーの選択を考える上でタイムリーな素晴らしい企画です。講演内容もわかりやすく容易に理解できた。ただ、国道24号線花山交差点からここに至る道は江戸時代の面影を残す迷路のような道です。案内標識の完備が望まれます。
- ・パイプの中を水が通ると位置エネルギーがほぼ保存されるが水路ではあまり保存されない理由はよくわかりませんでした。
- ・スペインの風力発電がたくさん電気を作り出しているにもかかわらず、お金が生み出せないと新聞に書いてありました。難しいものですね。
- ・再生可能エネルギーの現状と課題について知れてよかったです。

講座名 (タイトル)	和歌山で可能な再生可能エネルギー	
実施会場	(名称) 和歌山市男女共生推進センター	
	(所在地) 和歌山市小人町29番地	
実施日・時間	平成24年11月24日(土) 14:00~16:30	参加人数 21名
【講座概要】 はじめに、和歌山の地域特性である、豊かな自然＝自然エネルギーの宝庫、世界遺産、東海・東南海・南海大地震を踏まえ、環境、防災、観光を統合した地域再生戦略を考え、その中に再生可能エネルギーをどう位置づけるかの視点が大切との提起がありました。次に自然エネルギーの可能性と様々な形態の説明のあと、日本(和歌山)の気候風土に適した自然エネルギーは小水力(モンスーン地帯、急傾斜、稲作文化)、地熱(火山列島、地熱世界第3位)、木質バイオマス(植林文化、木の国)との見解が示され、各地で実施されている具体例の説明がなされました。 また、自然エネルギーの特徴として再生可能でクリーンという他に、地域ベースのエネルギー(地域経済の活性化につながる)、平和のエネルギー(資源争奪戦なし)、市民自治・地域自治を具体化するエネルギー、防災のエネルギー(災害時の自立電源)などがあるとの提起がされ、具体例が紹介されました。さらに、2010年には世界の発電容量で自然エネルギーが原発を上回り、この流れがさらに促進されるとの説明がなされました。 最後に、災害に強い地域づくりの視点から、ライフラインからライフスポットへと説明がされました。 ライフラインはラインであるがゆえに大規模災害に対して脆弱で、東海・東南海・南海大地震が起きたとき地域が長期の孤立化する可能性がある。ライフスポットはライフラインが切断、外部から孤立しても「自立」して存続可能なシステム(食料、水、通信、運輸、居住)で、エネルギーの確保の点では(1)熱エネルギーとして木質バイオマス(まきストーブ、ペレットストーブ、丸太コンロ)、太陽熱、(2)電気エネルギーとして太陽光、小水力、ハイブリッドカー、(3)輸送用燃料としてバイオディーゼル燃料などの自然エネルギーが有効であるとの説明がされました。 講演終了後アンケートを書いていた12名の方から回答を得ました。その概要を以下にまとめます。 ★性別 男性 9 女性 3 ★住所 和歌山市 5 紀の川市 2 有田市 3 海南市 1 岸和田市 1 ★年齢 30代 1 40代 3 50代 2 60代 4 70代 2 ★この講座を知ったきっかけ チラシ9 ホームページ1 新聞記事1 知人の紹介1 その他1 ★チラシの入手先 主催団体1 県庁・市町村役場4、公民館2、その他2(図書館、中央コミセン、ビッグ愛) ★関心のあること 自然・環境 3 防災 1 産業・環境 2 その他 1(原発) ★感想・意見(自由記述) ・ライフスポットの考え方を初めて知りました。 ・ライフスポットの興味あるお話を聞けてよかったです。 ・再生可能エネルギーが今以上にもっと進むことを望みます。 ・スクリーンの写真、文字が薄く小さくよく見えなかった。同上に関連した配布資料も同じです。 ・自然エネルギー＋経済＋地域活性という多面的な方向でエネルギーを学ぶことができた。今後、地域で作る地産エネルギーを考えたいです。 ・自然エネルギーの多様性の有効利用の大切さ。 ・原発の要、不要が現在論議されておりますが、今回のお話を多くの人々に聞いていただきたいと思います。 ・10月、11月はいろんなもようが多く、10月28日、11月17日は参加できませんでした。これからも原発、原爆を継続して勉強していきたいので今後も講座を続けていただきたいと思います。		

平成 24 年度 高等機関コンソーシアム和歌山

「わかやま学講座」 事業実施報告書

平成 25 年 1 月 21 日

企画団体名 橋本みんなでつながり隊

事業名				
企画の趣旨 及び理由	* 人間関係が希薄になり、自殺、孤独死などが大きな問題として取り上げられる今日、橋本に住む誰もが 自分と他人(ひと)を大切にし、ゆるやかに心地よくつながっていくために何かできる事はないだろうかと考えました。 * 以前から、人と人との出会いの場・学びの場である「街のホットステーション」でがんばっている市内9館の公民館職員の皆さんと、一緒に何かやりたいという思いがありました。 * 公民館館長さん、主事さんの中に、「職員一同が共に学ぶ場がほしい」「もっと公民館を必要とする市民に、公民館の存在を知ってほしい」という課題意識があることを知り、社会教育委員として、また公民館ファンとして今回の企画となりました。			
実施会場	【名称】橋本地区公民館		【電話】0736-34-2750	
	【所在地】橋本市市協1丁目3番18号 橋本市商工会館2階			
企画内容	回	実施日・時間	テーマ・内容	講師
	1	9月3日(月) 13時半～16時	しんどいってどんなこと？ ～心理学の立場から考える～ みんなでわいわい考えてみよう。	和歌山県立医科大学医学部准教授・猪股剛氏 56名
	2	10月15日(月) 13時半～16時	公民館に期待すること ～自分も何かできるかな～ 公民館への思いを出しあってみよう	和歌山大学副学長・堀内秀雄氏 52名
	3	12月3日(月) 13時半～16時	心をつなぐ 心をむすぶ 公民館よもやま話～今、公民館がアツイ！職員に活動を語ってもらおう	和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授・村田和子氏 52名
主催者及び参加者にどのような成果をもたらしたか	参加者への成果 1) 講演日を市内公民館の休館日である月曜日に設定したことに加え、教育長が各講演会を振替休日として応援して下さったこともあり、多くの公民館職員の参加が得られた。特に若い職員から、「モチベーションが上がった」「講師先生の話が大変よかった」「勉強になった」という感想が多く寄せられた。 2) 一般市民も行事の多い時期にも拘らず大勢が参加してくれ、好評であった。 3) 市外からの参加者からも、「橋本の公民館活動に刺激をもらった」「いい勉強になった」「楽しかった」と喜ばれた。 4) 毎回50名ほどの参加者があった。ありがたいことであった。			

主催者への成果

- 1) 主催者にとって、公民館活動の課題や可能性を改めて見直す時間となった。
- 2) 企画する中で、たくさんの出会いとつながりが生まれた。社会教育委員、公民館職員、行政との絆が強まった。この成果を今後どのように進展させていくかを目下探っている。
- 3) 回を追うごとに、新しい進展と発見があった。特に 3 回目の講演会は、主催者メンバーではない、公民館長さんに企画をお願いしたところ、大変好評で、現場で学ぶということ、人とつながるということを身をもって学ばせてもらった。
- 4) たくさんの方のご協力に感謝すると共に、いつも「あたりまえ」のような気持ちで参加してきた様々な講演会を企画くださっていた裏方の皆様のご苦勞を少しだけ感じることが出来た。主催者メンバーは全員大変忙しい方たちだったが、未熟な代表者に惜しみない協力をくださった。
- 5) 講師先生が 3 人とも本当にすばらしいマナビを提供くださったので、一期一会の貴重な時間となった。改めて感謝したい。